彙報

教育研究會

五月十九日、土曜、學生集會所にて廣島高等師範學校教授福島政雄氏の講演を聞く。氏がペスタロッチー、ヘルバルトの遺蹟を廻られた時の懐舊談であつた。引續き福島教授及び新會員の歡迎茶話會を開いた。

六月二十八日木曜、同じく學生集會所にて京都府立第都第一高等女學校長鈴木博也氏の講話を聞く。題目は本年より實施された入學についての新考査法に關するものであつた。（高橋俊乘）

寄贈圖書（昭和三年五月—六月）

最近寄贈せられたる圖書を簡明に次に紹介す。詳細なる紹介又は批評は別の機會を期す。

解脱方法論　廣瀨文豪著　東京寶文館發行

著者は先に「認識の實踐」「佛教哲學論」の二書を著して、佛教哲學の本質について概論を試み、斯學の爲に貢獻された。しかし佛教思想の理解は概念によつて得られるものではなく、體驗に於て始めて徹せられるものであるから、方法論の研究が佛教思想の根本である。これを忽緒に附して徒に思想の上にのみ、思辯を弄するならば、そは所謂る凡夫の智慧で佛の智慧を量らんとするが如きものである。

著者の見解によれば、悟とは決して超人間的な智の働ではないどこまでも人間的に徹した知である。現實の人間が現實に卽して得た大智である。かくの如く悟なるものを現實の人間が、空想でなく、確實に到達した或心境であるとすれば、その道程を彼等の記錄に因つて心理的に究明することは決して不可能の事ではない天台の止觀にしても、禪宗の公案にしても、これを心理的に見る時始めて、よく了解されるものであつてたゞ哲學的のみに見て居ては十分究明できないと言ふのは著者の根本思想である。（四六版、價貳圓）（高橋俊乘）

政道の寶鑑　唐の魏徵　赤池濃著　東京金鷄學院發行

人物研究叢刊第五として右書院から發行されたものであつて、七章より成り、唐の太宗に獻替の功を盡し、屢々忠諫を進めた魏徵について研究したものである。（菊版、價貳拾錢）

心理學論文集　日本心理學會第一回大會報告　岩波書店刊行

我が國に於ける心理學の發達の經路は厥來の心理學說の導入に始り、ついでその研究法及び認識法を獲得し、更に進で今日では直接に心理現象を研究するやうになつた。この研究法、認識法

を獲得することによつて、始め受動的、模倣的であつたのが今や能動的創始的に大廻轉することが出來たのである。

昨昭和三年四月に開かれた日本心理學會の第一回大會に發展された數十の研究報告を見ると、我が國心理學界の現在における發達狀況を大觀することが出來る。その研究は頗る多方面に渉り、又その內容も頗る豐富であつて、歐米の心理學界と相對して、劣る所がないと感ぜられる。殊に最近發達した歐米の心理學に關するもの、又我が國の社會及び時代に於ける實際問題に關するものが多い。一は心理學そのものゝ內面的發達、二は外的順應の發達を示すものである。

外に全日本心理學大會の報告記事がある。（二四二頁蒲判、武則）

（高橋）

寄贈雜誌新聞（昭和三年六月—七月）

哲學雜誌	昭和三年六月	第四九六號
丁酉倫理講演集	同　七月	第三〇九號
東亞之光	同　五月	第二十三卷第五號
哲學青年	同　七月	第一卷第九號
學苑	同　六月	第二四號
全人	同　七月	第二三號
生理學研究	同五月、六月	第五卷第五號、第六號
眞宗研究	同　六月	第一二號
精神科學	昭和二年十月	第二卷第四號
學校教育	昭和三年六月	（成績査定並に入學新制度問題號）第一八〇號
理想	同　七月	第二年第二册
基督教研究	同　七月	第五卷第三號
觀想	同　六月	第五〇號
哲學評論	中華民國十七年二月號	第一卷第六期
社會學徒	昭和三年六月	第二卷第六號
信濃教育	同　六月	第五〇〇號
エトアル	同　六月	第二卷第六號
奈良縣教育	同　六月	第一八三號
靜岡縣教育	同　六月	第三七四號
武藏野學院年報	同　五月	第七號
願悲	同　六月	第七年第六號
帝國大學新聞	昭和三年六月十八日、二十五日、七月二日、九日	
京都帝國大學新聞	昭和三年六月十一日、二十一日、二十五日	